

湯沢新火葬場整備事業基本計画（概要版）

第1章 概要

◇目的

湯沢火葬場は、昭和58年に建設されてから42年が経過し、施設・設備の老朽化に伴い住民ニーズに対応できなくなっています。長期的かつ総合的視点にたつて施設整備の基本的な方向を定めた基本計画を策定しました。

〈基本的な考え方〉

- ・火葬需要に対応し、将来的な変化にも対応できる施設
- ・遺族と会葬者に配慮した、心を癒すくつろげる空間
- ・維持管理しやすく、周辺環境に配慮した設備及び配置
- ・災害に備えた安全な施設
- ・路上駐車等の解消に向けた駐車スペースの確保

所在地	秋田県湯沢市 字沼樋 129 番地
設置年月	昭和 58 年 3 月
炉数	火葬炉 3 基、 汚物炉 1 基
敷地面積	4,313 m ²
延床面積	481.5 m ²

◇事業年度

現火葬場の火葬炉の状態から、保守は令和11年度までの判断が示されているため、令和12年度の新火葬場供用開始を目標に整備を行います。

第2章 計画条件

◇火葬炉数の算出（人口予測⇒死亡者数予測⇒火葬件数予測⇒必要炉数の算出）

年間火葬件数の予測結果は、2030年までは1,203件、その後は減少していきますが2050年でも918件が見込まれ、1基1日当たりの火葬件数を2件とした場合、理論的必要火葬炉数は3基となります。

汚物炉については、取扱件数の減少により整備は行いません。

	2020	2021	2022	2023	2024	平均
年間火葬件数	1,073	1,080	1,142	1,137	1,110	1,108
稼働日数	287	289	297	293	292	292
日平均火葬件数	3.74	3.74	3.85	3.88	3.80	3.80
火葬集中係数	1.60	1.60	1.56	1.55	1.58	1.58

〈理論的必要火葬炉数〉

= 集中日の火葬件数 ÷ 1 基 1 日当たり平均火葬件数

= 日平均火葬件数 × 火葬集中係数 ÷ 1 基 1 日当たり平均火葬件数

= 年間火葬件数 ÷ 稼働日数 × 火葬集中係数 ÷ 1 基 1 日当たり平均火葬件数

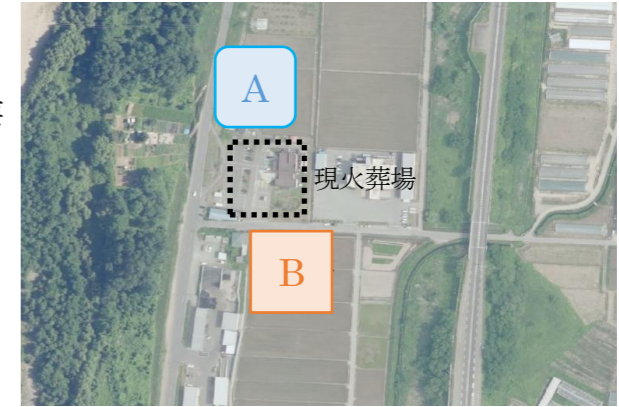
	2030	2035	2040	2045	2050
圏域人口	47,007	41,802	36,883	32,165	27,663
圏域内死亡者数	1,175	1,099	1,051	1,037	896
圏域外火葬数	28	26	25	25	22
年間火葬件数	1,203	1,125	1,076	1,062	918

例) 2030年の場合
必要火葬炉数 =
1,203 ÷ 292 × 1.58 ÷ 2
= 3.25 ≒ 3 基

◇建設候補地の検討

建設候補地の選定に当たっては、以下の点から現火葬場の近隣地を候補として検討しました。

- ① 現火葬場の老朽化が顕著であり、早期の更新が必要
- ② 新しく候補地を選定する場合、相応の年数が必要
- ③ 現敷地の有効利用が可能



項目/評価	A(北側)	B(南側)
経済性	○	○
災害影響	△	△
新火葬場建設時の影響	△	○
火葬場利用者への影響	○	△
周辺利用者への影響	△	○
現火葬場解体時の影響	△	○
必要面積の確保	△	○
評価	○ : 2 △ : 5	○ : 5 △ : 2

建設候補地の比較検討の結果より B 案（南側）が優位となりました。A 案（北側）より劣っていると考えられる「火葬場利用者への影響」については、火葬場利用者が多い場合には誘導整理を実施することや適切に道路看板を設置することにより影響を低減できると考えられます。よって新火葬場の建設候補地は B 案（南側）とし、現敷地は第 2 駐車場として有効活用します。

◇施設の構成と規模

火葬場の構成は、火葬部門、管理部門、待合部門、式場部門と駐車場等の付帯施設に分けられます。圏域内においては、圏内に民間の葬儀式場やホールが整備されており、公共サービスとして式場を整備する必要性が低いと考えられることから、新火葬場の施設構成は現火葬場と同様に式場部門を設けない構成とします。

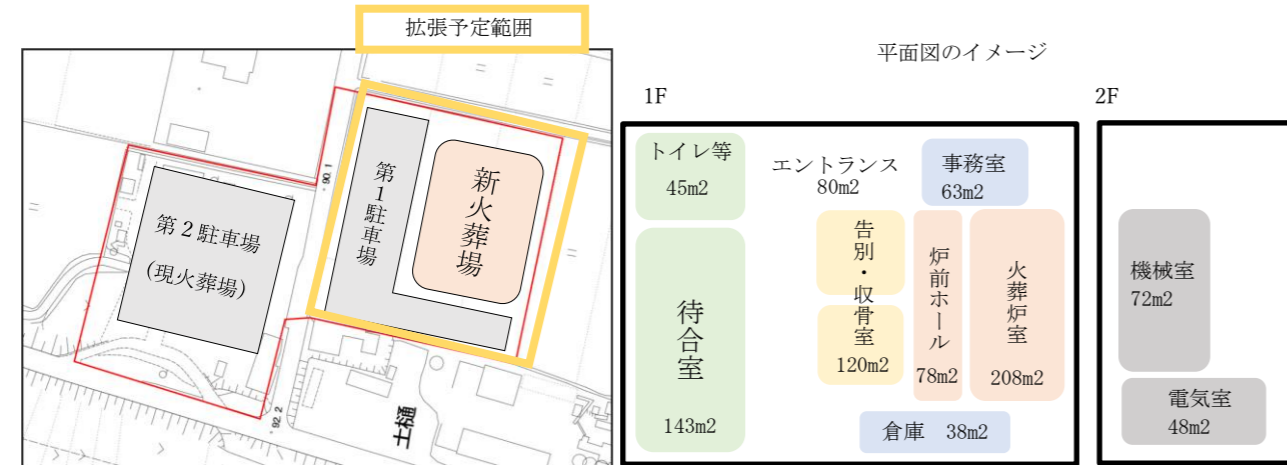
構成と想定規模					
火葬部門	管理部門	待合部門	駐車場		
			車種	対象	想定台数
火葬炉室 (3 基)	事務室 職員用諸室 倉庫	待合ロビー	普通車	普通乗用車	80 台
炉前ホール		待合室		身障者用車両	3 台
機械室		トイレ		業務用車両	5 台
エントランスホール		給湯室	大型車	マイクロバス	2 台
告別収骨室		授乳室			
延べ面積 約 1,200m ²			合計 90 台		

第3章 施設計画

◇平面計画

諸室や駐車場の想定規模を踏まえ、利用者のプライバシーや利便性に配慮し、想定イメージを示します。なお、ここで示すイメージはあくまで参考であり、今後の基本設計及び詳細設計にて詳細に検討します。

- ・利用者に分かりやすいレイアウトとする。
- ・利用者同士、利用者と火葬場職員が交錯しにくい利用者動線とする。

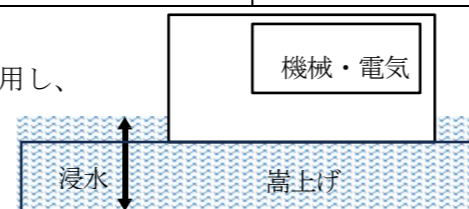


◇災害対策

建設候補地で想定される主な災害は浸水災害です。湯沢市の防災マップでは現火葬場を含めた建設候補地周辺の浸水想定は1~3mほどとなっています。嵩上げは浸水対策に対して根本的な対策となる一方で、有効に活用できる敷地スペースが制限されることや盛り土工事費用が高額になります。

項目	嵩上げ	防水扉等	主要設備配置
内容	盛土によって浸水想定水位よりも高い位置にすることで洪水が生じても施設内に水が流入しない。	防水扉、止水版や浸水対応ガラリなどを設置する。	機械や電気設備を高所に配置する。
メリット	根本的な対策となるため施設側での浸水対策が不要となる。	嵩上げや機器配置などの自由度は高い。	コストを抑えやすい
デメリット	勾配を確保するために駐車場などに活用できるスペースが狭くなる。盛土工事費用が高額となる。	火葬場の外観を損ねる可能性がある。通常仕様よりも浸水対策用で高額となる。水圧上限などの浸水対策として限界がある。	高い位置では日常運転やメンテナンスがしにくい。

新火葬場では浸水対策として嵩上げと防水扉などの設置を併用し、機械や電気関係などの機器を施設内の高い位置に配置することにより、被害を最小限に抑え、早期復旧を可能にします。



第4章 事業計画

◇概算事業費

基本計画策定時の概算建築工事費は約15億円、供用開始後20年間の維持管理費は約9億円(年間約4,500万円)を見込んでいます。維持管理費は、集塵装置にバグフィルター※を採用した場合と採用しなかった場合の2つについて算出しています。

なお、これらの費用は本計画策定時点における概算金額であるため、測量等の調査結果及び今後の物価変動や社会情勢の変化等の理由により、変更になる可能性があります。

※バグフィルター：排ガスを布やフェルトのフィルターでろ過する方式。フィルターは0.1ミクロンほどの粒子をカットするため、数~数十ミクロンのばいじん類を99%以上捕集できる高効率な集塵機。他の集塵装置には、スクリーン式やサイクロン式などがある。

建設工事費	(千円、税抜)		維持管理費	(千円、税抜)	
	バグフィルター有り	バグフィルター無し		バグフィルター有り	バグフィルター無し
建築工事費	1,046,400	1,046,400	人件費	560,000	560,000
火葬炉設備	255,393	159,636	燃料費	145,145	145,145
外構工事費	180,000	180,000	電気	40,194	20,097
関連経費	110,000	110,000	火葬炉修繕費	166,000	132,000
合計	1,591,793	1,496,036	消耗品・保守	47,000	31,000
			合計(20年)	958,339	888,242
			年間あたり	47,917	44,412

◇整備スケジュール

2030(令和12年)4月の供用を想定した場合の事業スケジュール

- ・2026(令和8年度) …火葬炉の選定、基本設計
- ・2027(令和9年度) …実施設計
- ・2028(令和10年度) …建設工事
- ・2030(令和12年度) …供用開始、解体工事、外構工事

項目	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)
火葬炉選定	■				
基本設計・実施設計		■			
建設工事			■		
解体・外構工事					●